

2016.12.17
滋賀県サッカーカンファレンス
TSG報告



TSGの目的



刻々と発展し続けている現代サッカーの中で、その傾向を常に追ってキャッチアップしていくことが、滋賀の取組みとして全国や関西で闘っていく上で不可欠となる。

各カテゴリーの滋賀のゲーム分析をはじめ、滋賀が出ていようがいまいが各カテゴリーの関西レベルや全国レベルの大会を視察し、テクニカルレポートを作成する。

単に試合結果や大会の報告をすることだけではなく、ここから課題を抽出し、その内容にしたがって課題のシナリオを作成、課題の克服を試み、そして再び各カテゴリーの試合や大会においてチャレンジするというサイクルを作る。

その内容を滋賀県サッカーの関係各所に頒布して、今後の強化育成に関する情報や方向性の共有化をはかり、滋賀県全体のレベルアップを図っていくことを目指す。

TSGの目的



現代サッカーのトレンドを知る

滋賀県の立ち位置の確認

今後の示唆

TSGの活動



2015.12. サッカーカンファレンス

12. 京都招待サッカー大会 (U-14.U-15)

2016. 1. ガンバカップ (U-13)

4. U-16関西トレセンリーグ第1節 (U-16)

5. U-16関西トレセンリーグ第2節 (U-16)

5. U-14関西トレセンリーグ第1節 (U-14)

6. 春季高校総体 準決勝・決勝 (U-18)

6. 近畿高校サッカー選手権大会 (U-18)

6. U-16関西トレセンリーグ第3節・4節 (U-16)

6. U-14関西トレセンリーグ第2節 (U-14)

6. 滋賀県スポーツ少年団選手権大会 (U-12)

TSGの活動



- 2016. 7. U-16関西トレセンリーグ第5節(U-16)
- 8. 滋賀招待サッカー大会(U-13.U-14)
- 8. 国民体育大会近畿ブロック予選(U-16)
- 10. U-14関西トレセンリーグ第3節(U-14)
- 10. 国民体育大会本大会(U-16)
- 11. 秋季高校選手権大会 準決勝・決勝(U-18)
- 11. 全少滋賀県予選(U-12)

- 12. 京都招待サッカー大会(U-14.U-15)
- 2017. 1. ガンバカップ(U-13)

* 11月～1月:U-16関西TCL後期、U-14関西TCL第4節・5節

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

サッカーの4局面

さらなる強化

守 備

攻撃 → 守備

ボールを失った時

素早い切り換え

攻守の一体化

守備 → 攻撃

ボールを奪った時

攻 撃

強化

2015年の狙い

2014年 カンファレンスでの提示

『守備』の強化

今年度の取組み

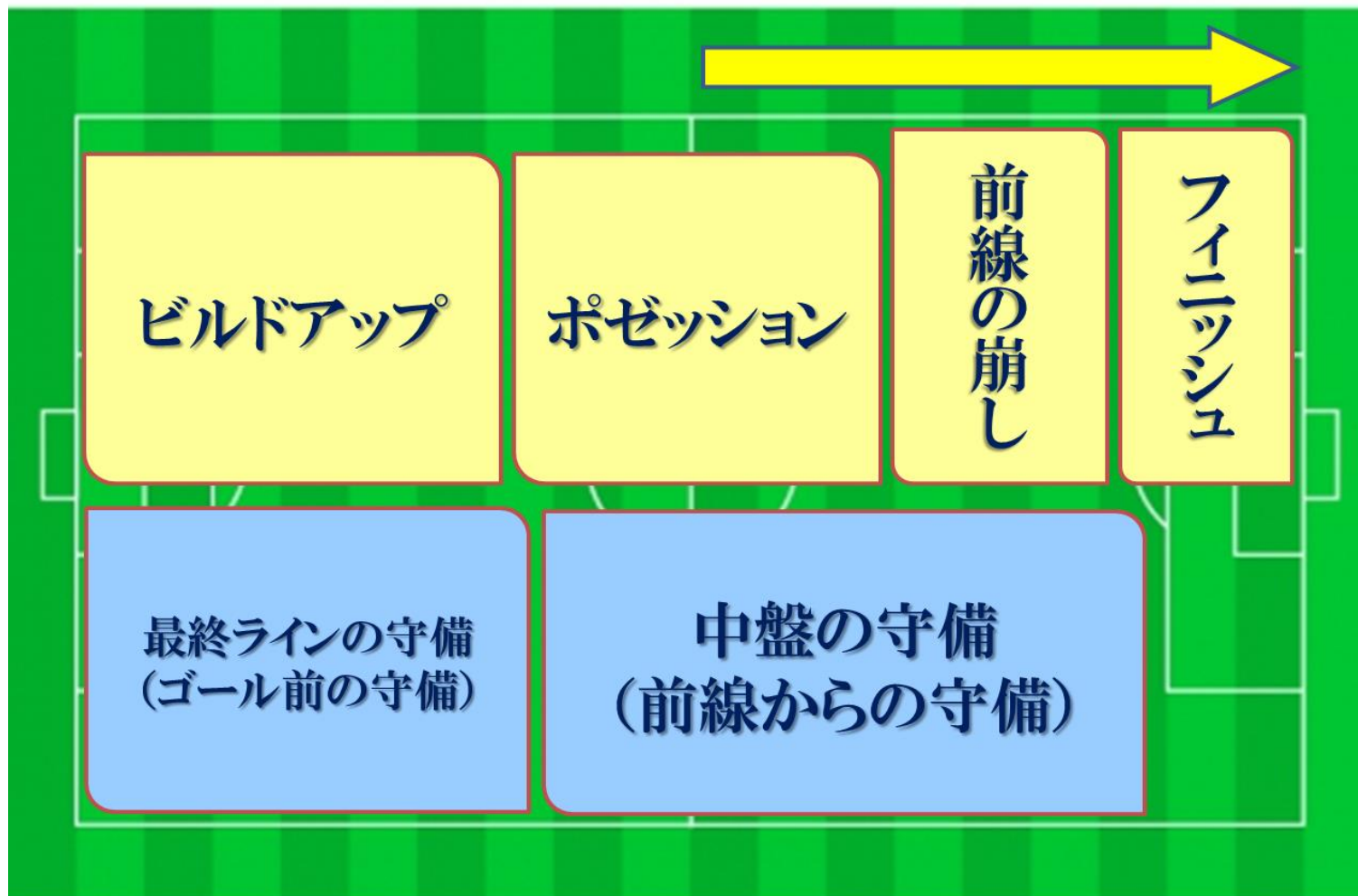


2015年 カンファレンスでの提示

- 守備のさらなる強化
- 攻守の切り替えの部分
- 攻撃

今年度の取組み

2015年 カンファレンスでの提示



今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

ポゼッション

ボールを失わないで前に進む

- ・OFFでの良い準備(観る、視野の確保、体の向き)
- ・サポートの質(ポジショニング…いつ、どこに)
動き出しのタイミング、パスライン、幅、深さ
- ・攻撃方向を意識(動きの優先順位)
- ・コントロールの質
- ・パスの質
- ・シンプル、リズム

観る…相手の観察

- ・DFラインの高さ
- ・守備組織の動き

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

ビルドアップ

安全・確実に前に運ぶ

意図的に空いている所を使う

- 安全、確実に
- GKとの関わり
- アドバンテージの共有(意図的)
攻めやすいところ、DFの薄さ
- 観る、観ておく
- サポートの質(タイミング、ギャップの共有)
- 攻撃方向を意識(動きの優先順位)
- コントロールの質
- パスの質
- シンプル、リズム

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

前線の崩し

FWのアクションでできたスペースを使う

FWを直接的に使う

FWを間接的に使う

- FWの動き出しのタイミング
強いアクション
- 安定したポゼッション
ボール保持者のボールの受け方と持ち方
- 変化を起こす・・・どこに何が起きているか
クリエイト&エクスプロイトスペース
- パス、コントロールの質
- フィニッシュの精度

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

フィニッシュ

ゴールを決める

- 強く、狙って打つ
打つという決断、思いきりの良さ
4隅を狙う
- シュートテクニック
コントロールからシュートまでを素早く
左右で打てる
- 動きながら
ゴールへ向かって走り込む
- 安定したポゼッション
パス、コントロールの質

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

中盤の守備

積極的に奪いに行く

意図的に奪う

縦パスを入れさせない

- 1stDFの決定
- 予測
- コンパクト (ボールを中心に・・・連動、スライド)
- 奪うチャンスを逃さない
 - ・・・いつ奪えるかの判断 (闇雲ではない)
- 奪った後のプレー (シンプル)

限定 ⇒ 攻撃能力の制限 ⇒ ボールを奪う

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

最終ラインの守備

ゴールを守る

「奪う」から「守る」へ

シュートを打たせない

守備の基本がベース

- ・シュートコース

ボールとゴールを結んだライン、面で守る

- ・カバーリングポジション・・・幅の意識

- ・プレッシャーをかける

- ・ボールを注視する

- ・ボールを奪うチャンスを逃さない

- ・奪った後のプレー (シンプル)

- ・GKとの連携

- ・ピンチを感じる

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

獲得目標				
		ポゼッション	ビルドアップ	前線の崩し
U-12		失わない		
U-13	個に特化	失わない 個人の技術(観る、動きながらのパスとコントロール)とサポート	ボールを失わず、前進する為のアドバンテージを理解する	OFFの選手のスタートポジション(ボールより後ろ)と動き出しのタイミング。 パスの質
U-14	仲間と連携し、3ラインでを意識してプレーする。	人数が増える中で3ラインを意識しながら、保持しながら前進する。 攻撃方向を意識したサポート	3ラインの中で、前進するために意図的にアドバンテージを作りだす	数的同数の中で、マークを外す動きから、相手の守備組織を意図的に崩す。 食いつかせるパス、ドリブルetc
U-15				

今年度の取組み



2015年 カンファレンスでの提示

獲得目標				
		フィニッシュ	中盤の守備	最終ラインの守備
U-12		足元で受けたボールからのシュートテクニック		
U-13	個に特化	シュートテクニック(動きながら)、コントロールからのシュートを早く、立ち足の柔軟性、振り抜く、狙ったところに蹴れる	奪う事、遅らせる事。自分のマークを意識しながらも縦パスを切るポジショニング。1vs1の対応	シュートを打たせない。(個人で、グループで) 外に追い込む。幅を意識したポジショニング
U-14	仲間と連携し、3ラインでを意識してプレーする。	攻守の切り替え、スペース(背後)へ走り込んで。2箇所以上に蹴り分けられる	3ラインの中でパスコースを切りながら奪うチャンスを逃さない	複数でゴールを守る。中盤とGKと連携しながら守る
U-15		リズムの変化、4箇所に蹴り分けられる+シュートの前(パス)を含めた精度、プレッシャーの中でのシュート		

成果と課題(攻撃)



成果と課題(攻撃)



①ポゼッション(テクニック)

<成果>

- 時間とスペースがあれば保持することができる

<課題>

- プレッシャーのある中でのボール保持
- 動きながらのコントロール
- 判断を伴ったボール操作(状況に応じたテクニック)
- 状況に応じたポジショニングの理解(サポート)
(どの状況でどこにポジションを取ったら良いか理解)
- ポジションを取り続ける
- 観る(見て把握する) ⇒ 予測 ⇒ 判断する
- ミドル、ロングパスの質(コントロールされた精度)

成果と課題(攻撃)



②ビルドアップ

<成果>

- ビルドアップの意識
(U-16やU-18はチームコンセプトを守ろうとする背景も影響)
- 時間とスペースがあれば運ぶことができる

<課題>

- プレッシャーのある中でのビルドアップ
- パスの質、コントロールの質
(回数を増やす、その質を上げる)
- リスクある選択(安全・確実でないプレー) ⇒ 失点orピンチ
- アドバンテージの理解と共有
(意図的かどうかは課題)

成果と課題(攻撃)



③前線の崩し

<成果>

- サイドの突破は滋賀のストロングポイント
(個の仕掛け、スピード)
- 長い距離を走り込む(空いたスペース/オーバー/ダイアゴナル)
- 攻撃の優先順位を意識したシンプルな突破

<課題>

- クロスの質
- ゴール前への入り方
- 突破を試みる選手をサポートする習慣
(サポートする選手がいれば選択肢が増える)
- タイミング(アクション/出し手と受け手)
- ハイプレッシャー下でのテクニック(動きながら)

成果と課題(攻撃)



④フィニッシュ

<成果>

- 打つという決断、思いきりの良さ
- パワーを持ってゴール前に走り込んでいく

<課題>

- 冷静に決めることができる
- チャンスを逃さずシュートを打つ(ワンタッチ)
- チャンスを逃さずシュートを打つ(打つためのコントロール)
- シュートを打たせるためのパスの質
- ミドルシュート
- 浮き球(ボレー)
- ヘディング

成果と課題(守備)



成果と課題(守備)



⑤中盤の守備

<成果>

- ・連続、連動して奪いに行く場面の増加(コンパクト)
- ・高い位置で奪える場面の増加(1stDF→予測)
- ・1stDF(ボールに近い人が奪いに行く)

<課題>

- ・個で奪うテクニック
- ・縦パスを通させない
- ・ボール状況に応じたポジショニング(予測)
- ・意図的に奪う(闇雲感があるのは否めない)
- ・奪いきる(ノーファールで)
- ・奪った後のプレー

成果と課題(守備)



⑥最終ラインの守備

<成果>

- 危険な位置から良い状態で打たさない
- ミドルシュートを簡単に打たさない(ミドルからの失点減)

<課題>

- シュートコースに入る
- 粘り強い対応
- カウンターを受けない守備(リスク管理)
- GKとの連携
- クロスの対応
- セットプレーの守備

成果と課題(その他)



成果と課題(その他)



⑦攻守の切り替え

< 成果 >

- ・カウンター攻撃でのチャンス増、得点増(守備→攻撃)
- ・スプリントの回数は増えた

< 課題 >

- ・すぐに奪い返しに行く(攻撃→守備)
- ・リスク管理(カウンターを受けないために)(攻撃→守備)
(攻撃をしながらも奪われた後の守備を考えておく...)
- ・奪った後のプレー(オンの選手、オフの選手)(守備→攻撃)
- ・攻守にわたってオフで「観る」習慣
(観るから予測ができ、判断することができる)
- ・ピンチを感じる／チャンスを感じる

2017年に向けての提示



- 基本的には2016年度と
同観点で取り組んでいく。
- より強度を上げて、
よりハイプレスの中で、
個のベースを高める。
- ベクトル合わせ

2017年に向けての提示



ベース(個)

ハイプレッシャーの中で動きながらコントロールできるテクニック

判断を伴い、状況に応じたボール操作(テクニック)
スクリーンやターンのテクニック

個で局面を守る、個でボールを奪う、個で跳ね返す守備

攻守にわたってオフで「観る」習慣（観る→予測→判断）

チームコンセプトを理解し共有しながらも、ゲームの流れを感じて
状況判断に基づいたプレーを発揮できる個(U-16)

2017年に向けての提示



攻 撃

ゴールを奪うことが目的であり、ゴールを奪うためにボールを保持する

攻撃の優先順位を理解した中での状況判断

ボール状況でどこにポジションを取ったら良いか理解する
ポジションを取り続ける

ドリブルは、突破のドリブル、時間を作るドリブル、相手を変化させるドリブルなど、エリアと状況に応じているか

ドリブラーの選択肢を保証するオフの選手の関わりが非常に大切であり、突破の確立を上げることに繋がる

2017年に向けての提示



守 備

まずは奪いに行くことから始まり、トライ & エラーを繰り返す中で奪いに行けるかどうかの判断

ファーストディフェンダーがボールを積極的に奪いに行くことで周りが連動し、グループ(組織)で奪うことを習慣化

オフの選手も常に良いポジションからインターセプトを狙い、ボールが移動するたびに、全員がポジションを修正することで組織的な守備が可能

クロスボールに対する守備はボールと相手を同一視できるポジショニングを取りながら、危ないスペースを消す、そして先に触る

2017年に向けての提示



攻守の切り替え

守備は攻撃のための準備の役割があり、守備をしながら奪ったらどう攻撃を展開していくかを考え、攻撃をしながらも奪われた後の守備(リスク管理)を考える

現代サッカーのトレンドとしても、守から攻の素早い切り替えからのカウンター攻撃が得点源

(ドリブル、2～3本のパスから素早い突破、ロングボール)

奪われた瞬間からボールを奪いに行く、中盤でブロックを形成して待つのではなく、奪われた地点からボールに近い選手がプレッシャーをかけていく

2017年に向けての提示



トレーニング

より攻守の切り替えが含まれた連続性のあるゲーム、強度が高く、集中力、予測力が求められるトレーニングが必要

だらだらした、心拍数の低いトレーニングをしていれば、心も体もその要求レベルに適応してしまい、それ以上のテンポや強度の中では通用しない選手を養成してしまう (S.A.I.D=Specific adapt to imposed demand)

1人でも気を抜くと全体のトレーニングが停止してしまうようなオーガナイズの工夫やプレーの確保

パス&コントロールやポゼッションに時間が割かれ、ゴール前の攻防やゲームの時間が少なくなりがち。

ゴール前での攻防、フィニッシュの精度、GKのレベルアップを図るためにも、トレーニング全体の時間配分に考慮

2017年に向けての提示



コーチング

「基準を与えて考えさせる、プレーさせる、良いプレーを褒める」
を繰り返し、選手の意思を尊重しながらトライ＆エラーを見守る

何が良いプレーなのか伝えることが重要

コーチングは、選手自らが解決方法を見出すためにサポートする
ものであることを認識

(自立した選手育成に繋がるのがコーチング)

やらせるサッカーから気付かせるサッカーに

(常に要求を忘れず、良いものは褒め、トライさせる中で失敗から学ばせ、判断力を磨いていく)

2017年に向けての提示



コーチング

見守る勇気と同時に忍耐力

(選手には時間が必要であることを意識する、良いものが出来上がるまでには時間がかかること、そして学び理解するには個人差があることも認識する)

自らの経験の中で気づき、身に付けたものは、一生忘れずその状況になれば再現される。経験値が予測力になり、ゲームにおける大局観に繋がっていく

(思考を停止させないアプローチが自立した選手の育成に繋がっていく)

2017年に向けての提示



指導者

ジュニア、ジュニアユース年代では基準を示し、躰の年代と考える（しつけに必要なことは信頼関係、そして同時に指導者の明るさとゆとりが求められる。厳しさだけがしつけではない、だからと言って優しさだけでもしつけられないことを理解しなければならない。一人一人と向き合う姿勢が非常に大切であり重要である）

ゴールを奪う、ボールを失わない、ボールを奪う、ゴールを守る、サッカーの本質を常に要求し考えさせることが、選手の成長を促すことに繋がる

上手い選手と良い選手の違い

（良いサッカー選手の育成には、人間力へのアプローチは必要不可欠）

2017年に向けての提示



我々指導者が、
本気で日常を変えていく努力を
これまで以上に！